

名古屋能楽堂

正月特別公演

能・狂言が映す“時代” — 改元に寄せて —

頼りになるのは、すぐそばにいる神さま

困ったときの神頼み。いま困っていないなくても、幸せを願って神頼み。
身近な神さまだからこそ、私たちの困りごとや願いをわかってくれる。
「八百万(やおよろず)」と称される、
日本ならではの親近感あふれる神さまを描く能と狂言を、
令和最初のお正月に。



能
翁おきな

「高砂」(観世流)
シテ 清沢 一政

「福の神」(和泉流)
シテ 鹿島 俊裕

「翁」(観世流)
シテ 久田 勘鷗
千歳 伊藤 裕貴
三番叟 伊藤 泰



能
高砂たかさぎ

撮影:杉浦賢次

撮影:杉浦賢次

令和2年

1月3日(金)

13:00開演 (12:30開場)

※能「翁」開演後30分間は入退場できませんのでご注意ください。

指定席5,200円

自由席(一般).....4,100円

自由席(学生).....2,100円

※当日券は自由席のみ500円増となります。

♪ご来場の方に抽選で素敵なプレゼント!

本公演にご来場の方の中から抽選で10名様に能楽グッズをプレゼントします。
※ご入場の際にお配りするパンフレットに応募券(ご応募の締切は休憩終了までが入っております)をご確認ください。

●イヤホンガイド 演能の解説が聞ける受信機を無料でお貸しします。(日本語/英語)
Noh performance Guide/Rent-free for a wireless headset (Japanese/English)

10月16日(水)より
前売券発売

主催



名古屋文化振興事業団 [名古屋能楽堂]

公益社団法人 能楽協会 名古屋支部



※能「翁」開演後30分間は入退場できませんのでご注意ください。

能 翁(観世流)



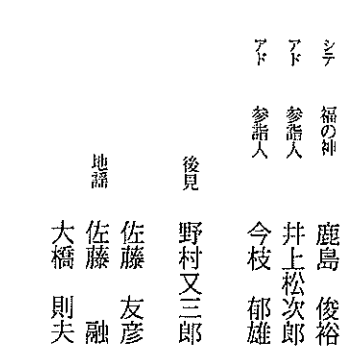
翁 久田 勘助
千歳 伊藤 裕貴
三番叟 伊藤 泰
面箱持 奥津健一郎
笛 竹市 学
脇鼓 成田 奏
小鼓頭取 曾和 鼓堂
脇鼓 古田 知英
大鼓 河村裕一郎

休憩二十分

「イヤホンガイド」

能「翁」
日本語/米田 真理
(朝日大学経済学部教授)
英語/藤江さおり(通訳ガイド)
能「高砂」
日本語/大山 寛子
(神戸女子大学古典芸能研究センター)
非常勤研究員
英語/藤江さおり(通訳ガイド)

狂言 福の神(和泉流)



シテ 福の神 鹿島 俊裕
アト 参詣人 井上松次郎
アト 参詣人 今枝 郁雄
後見 野村又三郎
地謡 佐藤 友彦
佐藤 融
大橋 則夫

能 高砂(観世流)

前々 樹 清沢 一政
後シテ 住吉明神 吉沢 旭
ツレ 姥 飯富 雅介
ワキ 神主友成 橋本 幸
ワキツレ 従者 榻元 正樹
アイ 高砂の浦人 松田 高義
竹市 学
船戸 昭弘
河村眞之介
加藤 洋輝
久田三津子
山田 義高

◆能解説「翁」(おまき)

新春、切火で清められた舞臺に、涙をすすませた演者が、面箱、翁千歳、三番叟と続いて全員が登場する。
「切火」とは、この場合、幕際から火打石で火を飛ばすこと、後見の役割、清めの気が清まる。
翁は狩衣、指貫、面箱、千歳、三番叟は侍烏帽子に直垂、嗟子地謡などは侍烏帽子に素襦袢を着る。
「翁」の舞は三郎から成り立っていて、最初の千歳は「鳴るは海の水」と謡い出し、若々しく機軸とした舞。次に翁の面を舞臺上でつけたシテは祈禱的な意味合いを持つ重厚な舞を舞う。その中で角、脇鼓、中央で三回ずつ拍子を踏む。これを「天地人の拍子」と称する。翁と千歳の退場の際、三番叟の賑やかな舞となる。はじめの部分を「採之段」、黒式尉の面をつけ、翁を持った後半の舞を「鈴之段」と称する。
天下泰平、国土安穩を祈る儀式能。
新年の翁。それはさわやかな日本の新春。

◆狂言解説「福の神」(ぶくのかみ)

毎年年の暮れに大社を訪ねる二人の信仰者。今年も連れ立って参詣すると、これを見守っていた福の神が降臨します。熱心に参拝を重ねる二人に対して、今後豊かな暮らしを続けるための秘訣と、神は訓示を述べますが...
狂言には福の神をはじめ(思比寿)や大黒など、庶民の信仰を集めた親しみのある神が登場し、ほのぼのとした温かみを感じさせます。
殊に本曲では「夫婦に争い事があつてはならぬ」「訪問客を拒んではならぬ」など、現代でも通ずるような訓示を述べつつも、「福の神には酒を供えよ」「賑わいというほど振る舞う」と我々が健一面も覗かせます。
また現在節分に行われる豆撒きの神事は、古くは正月行事とも謂われています。(井上松次郎)

◆能解説「高砂」(たかさご)

肥後國阿蘇の宮の神主友成の一行が、旅の途中高砂の浦に立ち寄り、浦の景色を眺めています。そこに竹杖(竹三)を持った尉と、杉籠を持った姥がやってくる。松の木陰を掃き清めます。友成は、高砂の松はどれかと尋ね、また、距離の離れた高砂・住吉の松に相生という名があるのは何故かと問います。老人は、この松こそ高砂の松で、距離が離れていても夫婦の心は通じるものと語り、自分は住吉の首この姥は高砂の首たと言います。老人たちは様々な故事を示し、御代を弄ぎます。そして、実は自分達は相生の松の婿夫婦だと明かし、住吉で待つと言いつつ、小舟に乗って沖に消えます。
友成一行は、高砂や、この浦舟に帆をあげて、月もろくに不出汐の波の淡路の島影や、返く颯尾の沖崎まで...と、住吉へと急ぎます。住吉に着くと、住吉明神が現れ、千秋楽は民を誨めて、万歳業には命を延べ、相生の松園の燈と、娘と舞を舞います。

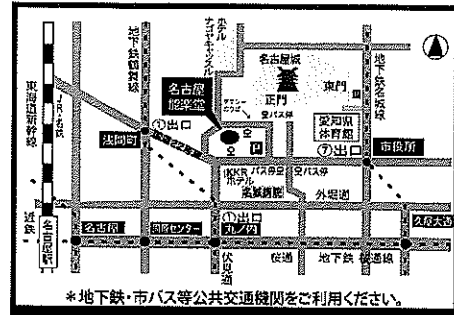
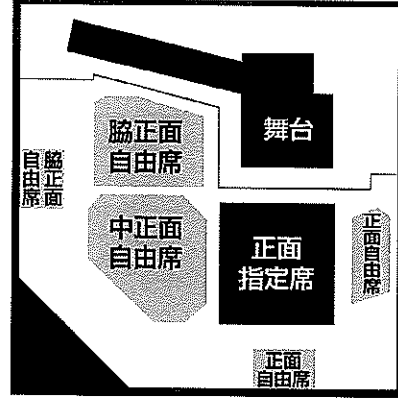
正月特別公演事前学習講座 12月14日(土) 14:00~16:00
[受講チケット] 正月特別公演とのセット券600円、一般券1,000円 ほか
◆能「翁」「高砂」のあらすじ、見どころを解説します。詳細は事前学習講座チラシをご覧ください。
※事前学習講座のチケット(定期公演とのセット券を含む)は、名古屋市文化振興事業団の管理する文化施設窓口にて取り扱いをしております。

Table with ticket prices: 前売 Advance sale 5,200円, 自由 Non reserved plus ¥500 on the day 4,100円, 学生 Student under 25 years old 2,100円

- *当日券は自由席のみ500円増となります。*学生券は25歳以下を対象とします。
*事業団友の会会員・障がい者手帳等をお持ちの方(付添者1名含む)は1割引(学生券をのぞく)
(名古屋能楽堂・事業団チケットガイド・事業団施設窓口のみ。各割引の併用はできません。)

前売券取扱所 Ticket Office

名古屋能楽堂/TEL.052-231-0088
名古屋市文化振興事業団チケットガイド/TEL.052-249-9387
名古屋市文化振興事業団が管理する文化施設窓口<土日祝日も営業>でもお求めいただけます。



地下鉄・市バス等公共交通機関をご利用ください。
ワクワク・キドキ特典がいっぱい「友の会」会員募集中!